

# 2018年度第2回 町田市子ども・子育て会議 大地沢青少年センター検討部会 議事要旨

---

## 【開催概要】

日 時：2018年10月30日（火）18：00～20：00

会 場：市庁舎 会議室 2-1

## 【議事次第】

- 1 開会
- 2 事務連絡
- 3 議 題
  - (1) 大地沢青少年センターに関するアンケート調査報告（速報値）
  - (2) 各調査比較報告
  - (3) 新たに展開するサービスと施設の位置づけについて
- 4 その他
- 5 閉会

## 【配布資料】

- 資料1 大地沢青少年センターアンケート結果
- 資料2 運営方式用語説明について
- 資料3 大地沢自治体ヒアリング比較表
- 資料4 町田市大地沢青少年センター事業展開構想（案）
- 参考資料1 アンケート項目
- 参考資料2 アンケート集計結果

2018年度 第2回 大地沢青少年センター検討部会 委員出席者

大地沢青少年センター検討部会 委員

氏名	所属	出欠
◎金子 和正	東京家政学院大学	出
関野 鎮雄	町田市法人立保育園協会	出
馬場 昭乃	町田市社会福祉協議会	出
土田 昇	町田市公立小学校校長会	欠
澤井 宏行	町田商工会議所	欠
川口 雅子	町田市青少年委員の会	出
井上 正行	一般財団法人相原保善会	出
青木 仁	町田市大地沢青少年センター運営委員会	出
安達 廣美	町内会・自治会連合会	欠

◎：部会長

・備考： 傍聴者（0名）

2018年度 第2回 大地沢青少年センター検討部会 事務局出席者

氏名	所属	出欠
石坂 泰弘	子ども生活部子ども総務課課長	出
永野 修	子ども生活部大地沢青少年センター所長	出
中村 考志	経済観光部観光まちづくり課長	出
守田 龍夫	都市づくり部公園緑地課長	出
金木 圭一	学校教育部指導課指導室長兼課長	出

子ども総務課事務局：石崎 進、吉田 織子、石川 浩二

## 【議事内容】

### 1 開会

子ども総務課担当課長：皆様本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから 2018 年度第 2 回町田市子ども・子育て会議大地沢青少年センター検討部会を開会します。

### 2 事務連絡

子ども総務課担当課長：議事に入る前に皆様に報告があります。町内会・自治会連合会の代表として、本部会でもご活躍いただいていた平山富士雄様が 8 月 7 日にご逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。平山様に代わりまして町内会・自治会連合会からは安達廣美様にご出席いただきます。

本日は、土田委員、澤井委員、安達委員から欠席のご連絡をいただいております。半数以上の委員の出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。また、今回より会議の運営支援のため、榎名豊が参加いたします。議事要旨作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了解ください。

本日の会議は、2 時間程度を目安に進行していきたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会議の公開についてですが、本日傍聴を希望の方はいませんのでそのまま進めさせていただきます。

それでは資料の確認に入ります。

[資料の確認]

### 3 議題

#### (1) 大地沢青少年センターに関するアンケート調査報告（速報版）

金子部会長：それでは議題（1）大地沢青少年センターに関するアンケート調査報告（速報版）について、事務局から説明をお願いします。

[資料 1 の説明]

金子部会長：ありがとうございます。速報値について何か質問等があればお願いします。

お酒の解禁は 100%の人が望んでいないことは分かりました。

青木委員：健全育成で子ども会や子どもを連れていくような、例えば野外炊事や宿泊を含

めて連れていくケースでは反対というのが意見としてあります。また、子どもだけでなくお年寄りや大人が行く場合はお酒もいいのではとの意見もあり、ここは飲酒の賛成と反対が同率で、その意見が女性男性限らずあり、どう位置付けしていくかが難しいかと思えます。

井上委員：ここから読み取れるのは、知らなかったことと、圧倒的に多いのは青少年しか使えないと思っていたところだということです。これはやはり1つの盲点というか、浮き上がった問題点です。ここに出ているように、お酒の問題よりもむしろプログラムにいいものがあれば行きたいとアンケート結果に出ています。青少年センターと書いてありますから、知らない人は青少年だけだと思ってしまうかもしれません。そこら辺が1つのポイントかと思えます。

馬場委員：手ぶらでバーベキューがアンケートで1位ですが、集団で来る場合と家族単位で来る場合によって、家族だったらお酒あり、学校で来るならお酒なしでやるとか、ターゲット的なものが後でクロス集計することで分かればいいかなと思えます。

井上委員：民間はどんどん利用者を増やす方向で行きますが、これは公がやる施設で民間ではないので、ポリシーがないといけないと思えます。利用者の皆さんのために何でもやったらいいものではありません。そこに1つ整合があり、それをおさえる必要があると思えます。何でもやるというのは本当にいいのかという論議になると思えます。

金子部会長：他にいかがでしょう。今回は本当に数値が単純に出たということなので、なかなか深い話はできません。次回の会議で出てくる分析をもとに話せば良いかと思えます。

## (2) 各調査比較報告

金子部会長：続いて議題(2)各調査比較報告の説明をお願いします。

### [資料2、3の説明]

金子部会長：ありがとうございました。ただいま運営の細かい説明がありました。何かご質問等がありますか。稼働率が東京都と横浜市は70%くらいありますが、町田市は非常に低いですね。

井上委員：それぞれの施設のコンセプトが違うと思えます。ただ施設だけ見ていこうというよりも、コンセプトの違いで施設の中身が違ってくると思えます。コンセプトに

基づいた施設の在り方、プログラムの在り方が大事かと思えます。

子ども総務課長：民間活力を導入したことによって得られた効果ですが、東京都と横浜市は民間活力の前後がまだ比較できていません。東京都は高校の廃校舎なので、前がありません。ただ、東京都が有効に活用できているのは、京王電鉄が高尾のお膝元ということで、バス停を作って利用者を誘致していますので、利用率としては上がり、民間活力を入れた一番の利点かと思っています。横浜市の方は、ここに書いてある数値は75%と高いですが、今まで外郭団体に委託していたときの数値です。ですから、PFI方式で民間に委託したときに、この75%を維持できるかどうか逆に分からない状態です。ただ、今のところ利点としてあるのは、金銭面の話です。今までの単年度予算×15年で、修繕・運営までできるということでこの方式を導入しました。尼崎市は聞いたところによりますと、民間活力を入れる前は利用率が20%くらいでした。これは低いようにみえますが、1.5倍に上がっていると理解いただけたらと思います。あと1点ですが、先ほど委員から、何でもやるのではなくどうしていくかというお話しをいただきました。この話になる前に、京王電鉄に一度話を持ちかけてみました。例えば、民間で全部丸抱えで建物も新しくしてもらえたらいいのではないかと思ひ話してみたのですが、京王としては魅力が無いとはっきり言われました。あとはよく言うのが、高尾の客を引っ張ってこようということを考えたりするのですが、先ほどのわくわくビレッジでもあったのですが、高尾山から客はなかなか来ないそうです。高尾の登山客は他に回らないそうです。実際に高尾駅で商業施設を作ったりいろんな施設展開をしたりしていますが、高尾山の登山客は全然寄らず、1,000枚チラシを配って、そのチラシを持ってくると割引になると言っても、持ってこられた方は2人だけだったということです。地域を広げて大地沢もどうですかと聞いたが、甘いですと言われてしまいました。民間での開発を、当初考えてもみましたが難しいことが分かりましたので、実際にPFIや指定管理でやっている事業者を考えていくことになります。

大地沢青少年センター所長：大地沢の場合、高尾からの客はハイキングコースを利用してそのまま城山に抜けてしまうパターンが多くあります。高尾から大地沢や城山に人を呼び込むのではなく、高尾から城山へ抜けるハイキングコースの中でどう大地沢に呼び込むことかを考えたいと思っています。

金子部会長：うちの大学でも実習で行きましたが、やはり高尾から呼ぶのは難しいです。

私も 35 年ほど相原で大学の教員をやっていますが、過疎はどんどん進んでいます、逆にそれを利用して、大地沢をコアにして広げていけば面白いかなと思っています。子どもたちの声が聞こえ、お年寄りにも対応できる視点で共存するような核のセンターができるといい気がします。いずれにしろ前回の会議で、民間活力を導入してあそこを発展させていきたいと思いますということには、反対意見はありませんでした。どのような民間活力を導入するかというよりも、導入していくことが、皆さんと合意がとれればいいかと思います。

井上委員：大戸緑地をこれから東京都がどんどん整備する話があります。それとすぐ隣の農協学園の在り方がどうなるのか、その辺とあわせて落ちつくところが核になると思います。そういうところと連携してできれば、すごくいい空間になると思います。

大地沢青少年センター所長：この計画と合わせてというと難しいので、まずはこちらはこちらで考えて、その中でどう東京都と連携を組んでいくかを合わせて考えていきたいです。

青木委員：今の大地沢の話で、東京都の方でも具体的にはまだ出ていませんが、いろいろハイキングコースを考えているそうです。やはり、東京都と調整を図り、東京都のハイキングコースとうまく接続すれば大地沢に泊まる人も使えるということもあり得ます。もう 1 点、民間活力を導入するのは構わないですが、他の施設では、本当に財政コストの削減ができていますか。私が今まで知っている中では、大幅な削減は余程収入がなければ削減になりません。収入の増が無いと出る経費は変わらず、人件費が民間だから大幅に安いというわけではないのに、経費削減が民間活力の導入の一つになっています。大地沢の目指すところに、経費削減をどのように入れ込むかどうかも 1 つ、考えなければいけない部分だと思います。

子ども総務課長：財政コスト的に削減できているかというと、実は削減できていません。民間の知恵を得る点では、民間活力の導入がいいかと思いますが、サービス購入型というのは実はこういうコストの削減につながらないです。サービスを購入することで支えることになりますので、あまり財政面を強く打ち出すつもりは、今のところありません。ただ、民間事業者のアイデアは非常に思いつかないものがありますので、そういうものが提供できるようになれば、むしろいいことではないかということで、民間活力を市としてメインに入れていきます。

青木委員：今のお話はその通りだと思っていて、コスト的にそのかたちでは削減できない

と思っています。ただ、民間の維持管理のノウハウや持っているものは、ソフト面の様々な事業に対応することができます。行政の職員よりもよいものを持っているところがあるので、そのアイデアでよりよくしていき、将来的に利用者が増えれば経費がその分だけ削減できるかもしれない程度かと思っていますのが実情です。

大地沢青少年センター所長：東京都の職員の話は、今までのコストを削減できなくても新しいメリットが出てくれば、それ自体に価値があるのではないかということは言っていました。例えば、20%削減の話はなかなか東京都では難しく、何%削減されたかはあまり気にせず行うということの話があったことと、地域連携でいくつか紹介しましたが、セブンイレブンの記念財団と組むことができるとか、こういうことは指定管理やPFIの良い部分で、連携を市がやるよりもできるかと思っています。その連携の評価のところは、やはり民間は強いのかなということが、今回3市ヒアリングした中で思ったところです。

金子部会長：いずれにしても民間活力を導入することでよろしいですね。もう1つは、私の友達にプロでやっている人が随分いますが、青木さんがおっしゃったように、儲けはほとんど出ないです。指定管理で取ったらずっと取り続けていって、どんどん増やしていって、社員を何とか食いつないでいかななくてはいけないのが現実で悩みだと社長は言っていました。あと将来的に、あそこ一体がアウトドアの聖地になるのは、何十年先ですかね。そういうところになればいいなと思っています。最後の残された多摩丘陵の1つですから、いい方向に発展してくればいいなと思います。

### (3) 新たに展開するサービスと施設の位置づけについて

金子部会長：議題(3)新たに展開するサービスと施設の位置づけについて、説明をお願いします。

[資料4の説明]

金子部会長：ありがとうございます。ただいまの説明で何かご質問等がありますか。今の学校の教員は10年更新講習がありますが、どの団体もできると思います。大地沢でそれをやってくれるといいですよ。そうするといろんな学校の先生が集まるし、幼児教育でも大地沢で毎週土曜日にやってくれば、私はいいのかなと思っています。一昨日も役員をやっている日本キャンプ協会の研修に出たのですが、文科省が民間に委託しています。なので、中高の体育の先生もロッククライミングがそこに

入っているので、そうするといろんな学校から大地沢にきて、宣伝になるかなと今説明を聞いていて思いました。いろんなところに大地沢のよいところを情報発信できればいいかと思えます。

関野委員：今、新しい事業提案の案で、市内幼稚園や保育園の利用促進がありました。データとして今度聞きたいのは、市内幼稚園や保育園でどのくらい利用している園があるのかを1つ知りたいと思いました。利用促進の中で、例えば、10%だったのを40%や50%に上げていくのか、それとも30%くらいのをさらに上げていくのかで、いろいろ考えが変わってくるかと思えますので、私はそれに興味があります。ただ、プログラム開発とここに書いてありましたが、大地沢は単発の教室の案内はありますが、例えば一日を通して大地沢に来て、午前中はこういうプログラムでお昼はこれ、午後は例えば保育園なら昼寝をさせてもらいたいということも出てきます。あるいは急であっても午後の軽い遊びとか、1日の流れでプログラムを提案できるようになると、市内幼稚園や保育園の利用促進が、今まで使っていなかったところでも魅力的に映るのかなと思いました。今度で構いませんので、データをお示ししてほしいと思えます。

大地沢青少年センター所長：保育園の方は今週来て来週も来るというところもあり、今年は3歳児の子ども、次は4歳児をお願いしますということも結構あります。先ほど言っていたお昼寝も、うちの部屋を予約していただいて、まずは川遊びやハイキングを幼稚園側で組み立ててもらって、その後お昼寝をするケースも多々あります。直近1年のデータは、次回お示しします。

関野委員：今所長から、幼稚園が、大地沢のプログラムを取り込んで、組み立てているとのことでしたが、利用しやすいとなると、そういうプログラムを市の施設なので提案してもらって、1日行くところのようにすごく楽しめるというような、そういうのを見せていただくと利用促進につながるかと思えます。

大地沢青少年センター所長：そういうのは指定管理や民間活力を入れたりしながら、検討しようかと思っています。幼稚園や保育園からも教えてもらえるとありがたいです。

金子部会長：では教員講習はもうやっていますか。

大地沢青少年センター所長：教員講習はやっていないですが、幼稚園や保育園の先生たちにうちの事業を体験してもらうような講習は行なっています。プログラムがあり、そういうことを経験してみませんかとやり、中にはとても役に立ちましたと言って

いただける保育園の先生もいます。

金子部会長：青少年施設でガチっと固まるのではなくて、更新講習をやると大人も集まって来ると思います。利用客の拡大を図り、イメージが子どものため、青少年のための施設だけというところから、少し広く捉えるように考えていくことは良いですね。子どもだけでこれ以上の稼働率の向上は非常に厳しいかと思えます。

関野委員：教員免許の更新の話が出ましたが、幼稚園教諭も同じですよ。今保育園に勤めている保育士は、保育園免許と幼稚園免許の両方を持っていても、保育園で働いているときはその執行が停止されているので、今大丈夫かと思いますが、認定こども園になると保育教諭になって、有効な幼稚園教諭免許と保育士資格が必要になります。そうすると今、保育園で働いていれば幼稚園教諭の免許は関係ないと思っている人が多いです。都心に向かうよりは近い所でその定期更新が行われると、やはりそのところで更新したいとの考えもあると思います。もう1つ、更新免許で大地沢に行くことによって、先生たちが大地沢の魅力に気がつく、そこを遠足のターゲットにしようとか、1つのきっかけになるかと思えます。なので、私は保育園なので幼稚園教諭のことばかり言っていますが、そういう教員免許証の更新がそこで行われるのは、そこから子どもたちへの誘致に段々つながる可能性があると感じているので、是非検討をよろしくお願いします。

馬場委員：委員の言っていたことの繰り返しですが、資料3と資料4を見ていて、資料3の上の方に「施設の位置付け」とあり、青少年施設であったりレクリエーション施設であったりしています。資料4の事業展開構想が仮にこれだとした場合に、先ほどのコンセプトの話もありましたが、1つに絞り込んでしまうと、なかなか次の発展が無いので、福祉増進の部分を広げ、施設の位置づけを広くしていった方が良いかと思えます。部会長がおっしゃったように、同じような意見です。

金子部会長：いずれにしろ地域のことをまず中心に考えていただいて、それから地域とうまく連携できれば伸びるのではないかと思います。地域抜きで大池沢が発展することはないと思います。あと、冠に青少年という名称はつけなくてもいいのではないかと思います。どうでしょうか。取ってしまい何でも構わずではなく、青少年センターで始まった施設ですので、青少年という考えを大事にいただければ良いのではないのでしょうか。

井上委員：教育委員会が所管だとはっきりしましたが、所管が市長部局に移ったので、だ

いぶ変わってきたと思います。メインがこれだというものはおさえておかないといけないと思いますが、名前はさっきあったように、青少年しか使えないと勘違いする人もいっぱいいますから大地沢センターでいいかと思います。

金子部会長：青少年とつくると青少年が優先的だろうというイメージが強く感じられます。

井上委員：青少年でないといけないという人もいますから、利用できないと勘違いする人がいっぱいいますね。市の立場としてこういう施設でありたいというのは何かないですか。それが全く無くて丸投げでここの意見でやるのか、あるいは市としてこういう施設でありたいというコンセプトがあればですが。

大地沢青少年センター所長：市としては利用促進を図りたいです。そこを考えると、先ほど教育委員会から子ども生活部が変わったので、その意味では、当初の教育に強く縛られなくてもいいかという視点は持っています。アンケート結果でも、青少年しか使えないと思われていたところもありますので、何か足かせになっているかと思うところがあります。設置目的にも青少年育成と市民の福祉増進があり、福祉増進のところをもう少し強く打ち出せるよう、民間活力の導入の中で考えていきたいと思っています。

井上委員：全くレクリエーション施設で割り切っているのでしょうか。市の立場としての思いがあり、それによって方向性は変わってくるかと思っています。

金子部会長：埼玉県には青年の家という施設がありますが、全部元気プラザとかに名前を変えました。ただ、いくつかは名前を残していますが。やはりとんでもない名前をつけられないので大地沢は残るかもしれませんね。

井上委員：元気プラザになって、非常に使いやすくなりました。その前はとにかくものすごく使いづらかったです。あの辺りは非常に変わりました。

金子部会長：青少年のためのプログラム開発もしながら、多くの幅広い人を対象にしたことをやっていきたいと思いますということですね。

青木委員：コンセプトは今のいいと思うので、名称ですよ。青少年とついているとなかなか青少年以外の人を使いにくいがあると思います。そこは名称を何とするかは別として、やはり青少年というのは施設の名称から取った方が良いのではないかと思います。

金子部会長：これはすごく大事な話で、青少年を取る取らないというのは、ここで意思統一しておきたいです。

井上委員：愛称をつけたらどうですか。よくあると思いますが、市民から公募してみてもいいのでしょうか。

金子部会長：国の 27 施設は全部つけています。

川口委員：資料 4 の事業内容の中にファミリーキャンプとあります。やはりファミリー向けにも利用していただくようなかたちで考えているのでしょうか。

大地沢青少年センター所長：はい、変わらないです。

川口委員：その中で宿泊利用への移行につながると書いてありますが、宿泊したときにも家族に対して楽しいイベントをすぐ取り入れられるようなプログラムが、その日に行って楽しめるものがあると、利用者促進につながるかなと思います。アンケート調査の回答者の年齢は高いですが、30 代や 40 代の小さい子を連れた家族が寄れるような施設になっていくと、その年代のお母さんたちの集まりで、口コミで広がることもあり得ます。そのところをもうちょっと充実したものを表に出して、コンセプトの 1 つに入れていただくと、すごく利用が増えるかと思います。

関野委員：民間に指定管理をしていく議論になっていますが、所管課は子ども生活部のままの計画でいいのか、それとも所管課も子ども生活部以外に移管する計画を考えているのか、その辺はどうなのでしょう。

子ども総務課長：青少年施設の位置付けは変えようと思っています。位置付けとして青少年施設から変えた上で、青少年のプログラムは基本あり、今までの流れは守りつつ、プラスアルファでファミリー向けや健康増進のようなプログラムを作っていくことで、他との差別化をしていけば、更に利用者は増えていくのではないかと考えています。ですから所管についても、子ども生活部から動かすか、という話もあります。それはこれからの施設の位置付けを変えたときに、どこが最適かをこれから庁内で考えていくかと思っています。

金子部会長：他にいかがでしょうか。次はもう少しクロス集計した結果も出てくると具体性が出てきますね。名称は最後に検討できればいいと思います。

子ども総務課長：この検討部会で名称までは確定できないかと思っております。おっしゃったように、公募した方がいいかもしれないですし、その辺は一番最後の方になると思います。

#### 4 その他

金子部会長：なければ進行を事務局へお返しします。

#### 5 閉会

子ども総務課担当課長：金子部会長、ありがとうございました。次回の会議ですが12月21日金曜日となります。場所は、この会場とは変わらしまして、市庁舎3階の防災情報司令室2となります。以上をもちまして、2018年度第2回町田市子ども・子育て会議大地沢青少年センター検討部会を閉会いたします。皆さま、ありがとうございました。